



小笠原 宏 (写真部)

はなやま

発行
社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0803)
仙台市青葉区国分町 3-3-7
宮城県民会館内
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail: miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
編集 小山 喜三郎

が弱まるので、時を早く感じるのだと、一般的にはいわれています。しかし芸術活動に携わっている我々は、身体的能力は別として、心の活性化は横溢しており、この説は当

と一年の過ぎるの「歳を取る」と、ほやく人がいます。体と心の活性化が落ち、新陳代謝の力が弱まるので、時を早く感じるのだと、一般的にはいわれています。しかし芸術活動に携わっている我々は、身体的能力は別として、心の活性化は横溢しており、この説は当

何卒よろしくお願ひ申しあげます。また総会で承認された公益法人移行の準備委員会は、順調に検討を重ねておりますので、纏まった形で皆様に呈示いたし、判断を仰ぐ年となりましょう。さて「歳を取る

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年中は本協会の諸行事にご協力をいただき、ありがとうございます。本年も役員および事務局一同一丸となって皆様方のご期待に心えるべく、努力してまいる所存です。何卒よろしくお願ひ申しあげます。また総会で承認された公益法人移行の準備委員会は、順調に検討を重ねておりますので、纏まった形で皆様に呈示いたし、判断を仰ぐ年となりましょう。さて「歳を取る

踏み出す時

＝年頭のあいさつ＝

理事長 小山 喜三郎



て嵌まりません。諸行事に参加していくにつれ、芸術の奥深さに感動し、むしろ一年の長さに感謝している毎日です。

ふたつの違った場所から同一物を見たときの網膜像や視方向の違いを感じることも、または天体の一点を二カ所以上から眺めて比べた時の方向差で距離を測ること等が、視差といわれています。

全部門の会員同士が天体の一点(芸術)を視差しながら世代を超えて認め合い、高め合っていく時でありましょう。全会員の方々が芸術協会発足時の気概と情熱をもって一致団結して進み、県民と共に芸術文化の支柱となる活動に踏み出しましょう。

未来の芸術協会の展望が開かれる年になりますように。

感動とふれ合いと



表彰状を贈る小山理事長(左)

第47回 県芸術祭が閉幕

平成二十二年九月二十四日に開幕した第四十七回宮城県芸術祭は、多くの成果を挙げ、十一月十八日、ホテルメトロポリタン仙台で閉会式を行った。

授賞式には各賞の受賞者をはじめ、芸術祭関係者、来賓や芸協会員ら約二百八十人が出席した。

芸術祭会長、小山喜三郎理事長の挨拶で閉会式が始められた。小山理事長は、挨拶の中で「県民とのふれ合いが持たれ、新しい芸術祭の芽生えが感じられた。さらに各部門

間や国際間の交流を深めて開かれた芸協を目指したい」と結んだ。

河北新報社代表取締役社長の祝辞があり、主催七団体の代表者の紹介があった。

ひきつづき各賞の受賞者の表彰が行われた。当日、式典に参加した芸術祭の各受賞者は五十七人。ほかに宮城県芸術協会功績者十二人、地域文化功労者文部科学大臣表彰一人、文化の日表彰（教育文化功労）三人に、それぞれ賞状や記念品が授与された。

メディアテークを会場に絵

画・華道・彫刻・写真・書道・工芸展が開かれ、「羽後・南部文学小紀行」の文学散歩が行われたほか、長唄演奏会、音楽会、茶会がそれぞれの会場で開かれた。

絵画・書道の巡回展は東松島市コミュニティセンター、写真展は蔵王ふるさと文化会館と大和町まほろばホールとの二会場で開催。それぞれ多くの入場者があった。

東京エレクトロンホール宮城の会議室では文芸祭が開催された。また、「宮城県文芸年鑑」が例年どおり発行された。

第47回宮城県芸術祭入場者

〔開場式〕9月24日〓せんだいメディアテーク5F) 参加者48人
〔絵画展〕(9月24日〓10月6日〓せんだいメディアテーク5・6F) 日本画66点、洋画242点、入場者10417人
〔華道展〕(9月24日〓29日〓せんだいメディアテーク5F) 前期31点、後期32点、入場者2955人
〔彫刻展〓彫刻部会員とその仲間展2010〕(9月24日

〓29日〓せんだいメディアテーク5F) 19点、仲間展9点、入場者1969人
〔写真展〕(10月1日〓6日〓せんだいメディアテーク5F) 125点、入場者2515人
〔書道展〕(10月8日〓13日〓せんだいメディアテーク5・6F) 341点、入場者5531人
〔工芸展〕(10月8日〓13日〓せんだいメディアテーク5F) 66点、入場者2324人
〔文学散歩〕(9月29日〓30日)〓羽後・南部文学小紀行参加者28人

〔茶会〕(10月10日・17日・24日〓輪王寺) 入場者1104人
〔長唄演奏会〕(10月17日〓仙台市民会館小ホール) 入場者188人
〔音楽会〕(10月26日〓仙台市青年文化センター) 入場者523人
〔文芸祭〕(10月30日〓東京エレクトロンホール宮城) 入場者57人
〔写真展蔵王展〕(10月14日〓21日〓蔵王町ふるさと文化会館) 入場者535人
〔写真展大和展〕(10月23日

〓27日〓大和町まほろばホール) 546人
〔絵画・書道展東松島展〕(11月11日〓15日〓東松島市コミュニティセンター) 643人
〔閉会式〕(11月18日〓ホテルメトロポリタン仙台) 275人
〔宮城県芸術祭参加行事〕(第55回仙台三曲協会定期演奏会) (10月9日〓仙台市民会館大ホール) 入場者1101人
〔第41回洋舞合同公演〕(11月21日〓仙台市青年文化センター) 入場者1000人

功績者14人を表彰

閉会式では次の華道部三人、音楽部五人、茶道部六人が功績者として表彰された。
〔華道部〕熊野真蓉、篠原秋光、武内霜光(草月流)
〔音楽部〕大泉勉、三塚典子(洋楽) 杵家弥登恵、出井みわ子、古溝長子(長唄)
〔茶道部〕遠藤宗和(表千家) 佐藤宗寿(裏千家) 小野華舟(三彩流) 中村宗典(宗偏流) 伊藤南宮(織田流) 小川静美(文雅静庵流)

第47回宮城県芸術祭受賞者

賞 種	部 門	作 品 名	氏 名
宮城県芸術祭賞	絵画部(日本画)	生 夏	小野寺 君代 (大崎市)
	絵画部(洋画)	生 き る	久保田 敏 (仙台市)
	彫刻部	濤 声	大槻 俊之 (仙台市)
	写真部	噴 潮	紺野 勝司 (気仙沼市)
	書道部	露 し ぐ れ (かな)	寺 島 尚 翠 (仙台市)
	工芸部	流 文 練 上 鉢 (陶芸)	馬 場 興 彦 (石巻市)
	文芸部	秋 の ((悲)) の … (詩)	尾 花 仙 朔 (仙台市)
宮城県知事賞	絵画部(日本画)	旅 路	遠 州 千 秋 (仙台市)
	絵画部(洋画)	風 の 記 憶	数 本 奈 智 子 (仙台市)
	彫刻部	遠 い 稜 線 -2010.9 月-	虎 尾 裕 (川崎町)
	写真部	故 郷	鈴 木 忠 一 (村田町)
	書道部	千 虚 不 博 一 實 (篆刻)	高 野 芳 月 (多賀城市)
	工芸部	サ ボ テ ン 文 陶 管 (陶芸)	岸 上 ま み 子 (富谷町)
	文芸部	そ こ に 光 る 墓 村 (詩)	山 家 常 雄 (蔵王町)
	文芸部	独 り 言 (短歌)	原 田 夏 子 (仙台市)
	文芸部	影 新 た (俳句)	日 下 節 子 (大河原町)
仙台市長賞	文芸部	夏 の 空 (川柳)	佐 藤 岩 男 (仙台市)
	絵画部(日本画)	花 筏	岩 淵 仁 子 (仙台市)
	絵画部(洋画)	漂	玉 川 浩 嗣 (気仙沼市)
河北新報社賞	書道部	詠 懐 (漢字)	八 乙 女 青 鸞 (仙台市)
	絵画部(日本画)	瑠 璃 色 の 風	梅 森 さ え 子 (仙台市)
	絵画部(洋画)	明 日 へ	其 田 章 (仙台市)
	彫刻部	風 の 還	早 坂 修 (大崎市)
	写真部	絆	影 山 英 雄 (多賀城市)
	書道部	小野寺恵子の歌(近代詩文)	柳 由 美 子 (仙台市)
	工芸部	赤 陶 流 文 陶 管 (陶芸)	島 見 美 由 紀 (岩沼市)
宮城県教育委員会教育長賞	文芸部	冬 の し ぐ れ (短歌)	岡 本 勝 (仙台市)
	絵画部(洋画)	秋 日	堀 井 明 美 (仙台市)
	書道部	空 (墨象)	後 藤 法 明 (栗原市)
宮城県教育委員会教育長新人賞	工芸部	山頂朝霧-アオモリドマツ- (染織)	安 倍 ま ゆ み (仙台市)
	絵画部(日本画)	Y E L L	菅 井 糸 子 (仙台市)
	絵画部(洋画)	u - n - t i t l e d	本 田 崇 (大河原町)
	書道部	君 が 庵 (かな)	黒 田 清 苑 (岩沼市)
仙台市教育委員会教育長賞	書道部	恵 (少字)	和 泉 と し 子 (仙台市)
	工芸部	美 (陶芸)	佐 藤 英 子 (仙台市)
	絵画部(洋画)	ワ タ ツ ミ の 唄	岩 澤 誠 一 (大河原町)
宮城県議会議長賞	書道部	破 魔 (少字)	佐々木 藤 恵 (塩釜市)
	絵画部(洋画)	長 い 旅 の 終 り に	坂 本 和 之 (大崎市)
仙台市議会議長賞	書道部	夕 月 夜 (かな)	岩 澤 芳 華 (仙台市)
	絵画部(洋画)	海 景	谷 地 森 真 理 子 (仙台市)
	書道部	季 頌 詩 (漢字)	奈 須 野 青 蘭 (栗原市)
財団法人宮城県文化振興財団賞	絵画部(洋画)	今 週 の エ コ ロ ジ ス ト	高 松 和 樹 (仙台市)
	彫刻部	二 つ の 記 憶	海 野 健 治 (仙台市)
	写真部	雨 想 花	鈴 木 令 子 (仙台市)
	書道部	心 如 鐵 石、無 我、(篆刻)	櫻 井 龍 峯 (仙台市)
	書道部	作品 2010.8 ほんのり(墨象)	櫻 井 雀 鈴 (仙台市)
	工芸部	有 線 七 宝 盒 子 (七宝)	種 澤 有 希 子 (仙台市)
	文芸部	掌 中 の 砂 (川柳)	西 恵 美 子 (白石市)
財団法人カマイ社会教育振興財団賞	絵画部(日本画)	次 へ	富 樫 清 子 (仙台市)
	絵画部(洋画)	M e s s a g e (2010)	菅 原 典 子 (仙台市)
菅野美術館賞	彫刻部	守 り 人	板 持 彰 (仙台市)
	絵画部(洋画)	午 後 の 河 口	柏 谷 佳 代 子 (石巻市)
宮城県芸術祭奨励賞	書道部	紀 末 茂 詩 (漢字)	佐々木 鳳 堂 (大崎市)
	絵画部(洋画)	揺 ら め く ハ ー モ ニ ー	守 田 美 代 子 (仙台市)
	絵画部(洋画)	工 場 一 ある 光 景 Ⅲ	長 谷 隆 (岩沼市)
	絵画部(洋画)	燦	尾 形 た き 子 (石巻市)
	写真部	荒 神 参 上	阿 部 信 義 (大崎市)
	写真部	ほ く の I Q 8 4	伊 深 寿 人 (仙台市)
	書道部	柳 宗 元 詩 (漢字)	大 沼 翠 曄 (仙台市)
	書道部	高 見 順 の 詩 (近代詩文)	池 田 小 沙 (仙台市)
	書道部	「単調な空間」より(近代詩文)	高 野 博 行 (仙台市)
	書道部	吉田一穂の詩「岩の上」(近代詩文)	大 友 き か 子 (岩沼市)
	書道部	遠 (少字)	横 山 桂 子 (仙台市)
	工芸部	時 空 の 彼 方 へ (七宝)	川 北 京 子 (富谷町)
文芸部	植 木 市 (俳句)	山 本 一 史 (仙台市)	

高橋副理事長が受賞

地域文化功労者文科大臣表彰

平成二十二年度の地域文化功労者文科科学大臣表彰を、当協会副理事長の高橋通子氏が受賞された。

十一月九日、東京・霞が関の文部科学省内で表彰式が行われた。

地域文化功労表彰は、全国各地で芸術文化の振興など地域の文化振興に功績のあった

本選は3月21日

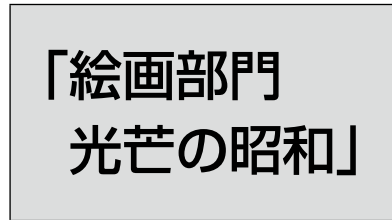
ピアノ・コンクール

第三十一回音楽コンクール（ピアノ部門）が今年も実施される。宮城県在住の小・中学生が対象で、初級、中級、上級に分かれて予選、本選を経て、級ごとに最優秀賞、優秀賞、奨励賞、作曲者賞のほか、宮城県知事賞、仙台市長賞、河北新報社賞が贈られる。予選は二月二十日（日）、本選は三月二十一日（月）、いずれも午前十時三十分から、仙台市戦災復興記念館で。

個人、団体をたたえ、文部科学大臣が表彰するものである。高橋通子氏は「永年にわたり、工芸作家として優れた作品を発表するとともに、宮城県芸術協会副理事長等の要職にあつて、地域の芸術文化の発展に貢献している」として、その功績がたたえられた。

高橋氏は昭和十一年生まれ。七宝作家である氏と七宝の出合いは、美術教師に見せられた変わった焼物（七宝）への興味であつたという。独自に試行錯誤を重ね、昭和五十八年には東京で指導者のため教室を持つに至つた。その間、早川義一に師事し、釉薬の研究をやり直し、^{ほうろ}研砂を使用するなど五年の時をかけて省胎七宝を完成させた。

平成二年、北京球璫工場からの技術交流の要請がきっかけとなり、北京工業大学設計学院で教鞭をとる。以後日中交流美術展を開催し、中国との交流に大きく貢献した。



2月1日から カメイ記念展示館

当協会はカメイ記念展示館との共催で、二月一日から三月十三日まで、カメイ記念展示館（仙台市青葉区五橋・カメイ五橋ビル七階）で「宮城県芸術協会絵画部門 光芒の昭和―芸術祭賞25年―」展を開催する。

承し、同展を初めとする審査員によって選ばれた立場の作家の仕事へと視点を移しながら、芸術祭受賞作品を中心に構成。当協会絵画部における昭和という時代のもつ意味を探ろうとするものである。昭和三十九年より六十三年までの日本画・洋画の受賞者三十六名の作品を中心に、宮城県の絵画の展開期にあつた同時代の作品を展示する。

針生乾馬参事

河北文化賞を受賞

当協会の針生乾馬参事が「多年にわたり陶芸界の発展と芸術文化の向上に寄与した」として、第60回（二〇一〇年度）河北文化賞を受賞した。

工芸部 主任が交代

昨年十二月九日に開かれた工芸部の運営委員会で、主任が渡邊つる子氏（染織）から、浅野治志氏（陶芸）へ交代することが決まった。

はなやま編集にあきた氏

長年にわたり機関紙「はなやま」の編集に携わった今入

会員の入賞・入選など

- ◆第42回日展入選
- 〈日本画〉佐藤朱希（洋画）吾妻篤、簡野寛山、佐藤幸子、佐藤みえ子、志賀一男、村田洋子（工芸）近藤孝則、平澤富子、川北京子（書道）加藤松軒、佐竹嵯都
- ◆第22回しんわ美術展（岡山）
- 〈洋画〉▽奨励賞Ⅱ岩澤誠一
- ◆国際ガラス展・金沢2010
- 〈工芸〉▽銀賞Ⅱ鍋田尚男
- ◆現在形の陶芸萩大賞展2010入選
- 〈工芸〉藤山敏子

文化の日表彰 芸協から4氏受賞

平成二十二年度の文化の日表彰（教育文化功労）に宮城県芸術協会関係から次の四氏を選ばれ、十一月一日、仙台市青葉区の仙台市民会館で、村井嘉浩宮城県知事より表彰を受けた。

- 佐藤朱希（絵画部・日本画）
- 大場尚文（絵画部・洋画）
- 平澤富子（工芸部・染色）
- 高野ムツオ（文芸部・俳句）

主な役職は（社）日本工芸会正会員、河北工芸展顧問、日本七宝指導者協会顧問。昭和四十七年伝統工芸新作展に初入選以来、受賞は多い。

新春随想

それぞれの幸せ

—みんなちがって みんないい—

文芸部
詩
前 原 正 治

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私がかからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

最後の詩行、〈みんなちがって、みんないい〉に、幸福の多様性への想いだけでなく、融和と平和への希求と均一と格差を突き抜ける思念が凝縮している。

(注) 傍点筆者



カット・小山喜三郎

文芸年鑑を無料配布

当協会が毎年発行している文芸年鑑のバックナンバーがこのほど、会員に無料で配布されることになった。本年度発行の第四十一巻はこれまでどおり有料頒布。

文芸年鑑は、昭和四十五年度に創刊されて以来、毎年刊行されている。文芸部の詩、短歌、俳句、川柳、小説の全部門の会員の作品で構成されており、会員はそれぞれの年度の力作を寄せていることから、各巻とも四百ページほどの読みごたえのある内容となっている。

最近では芸術分野の枠組みを超えて、コラボレーションする新しい潮流も生まれており、文芸部ではこれを契機に、年鑑が書道や絵画はもとより、他の分野でも広く活用され、部門間交流が一層図られることを期待している。

希望者は、欲しい年鑑の有無を葉書や電話、メールで事務局に問い合わせ、残部があれば送料のみで入手できる。

事務局の連絡先は、本紙第一面題字下を参照のこと。

宮沢賢治の「農民芸術概論

概要」は、序論・結論を含めて10の項目に分かれているが、論理的で緻密な概論というよりは、詩人としての卓抜な着想と超絶技巧の直観で織り上げた、情熱と痛苦とが合体した魂の *Passion* の吐露である。この概要は一九二六年六月に書かれている。その年の三月末に、四年余り勤めた花巻農学校を退職し、独立して自炊生活に入り、荒地を開墾し、農事指導や肥料設計を無償で行い「羅須地人協会」を設立するなど、教師生活の桎梏から解放され、高揚とした気分で〈農〉の世界に参入・実践した頃である。

い」という一文だろう。博愛・平等の観点からみて、これは正義であり真理である。また概要の農民芸術の総合という項目の中の、〈まづもろともにかがやく宇宙の微塵となりて無方の空にちらばらう〉という文意から、賢治の無私・自己犠牲・愛他の心情と思想を否定することはできない。けれどはたして「幸福論」の追求の中に幸福は存在するのだろうか、という疑問は残る。なぜなら万人いれば万様の幸福像と幸福感が生まれるからである。物的金銭的幸福の場合など、一つの幸福の成就のあと、いつまでもつづく渇きの無間地獄に陥る者も出てくる。〈世界がぜんたい幸福にならないうちは〉という絶叫や号令の下、抑圧や忍従や犠牲を強いられたり、争いや殺

戮に及ぶことさえあるかもしれない。〈世界〉はいつでも〈国家〉や〈集団〉に置き換えることができる。いま均一と格差の社会にもまれて生きている私達には、世界を幸福という言葉で一つにまとめる考えからよりは、むしろ現在に甦った自死した〈薄幸〉の童謡詩人金子みすゞの次の詩篇の、幸福という言葉を用いない無垢の心の中にこそ、より高いそれぞれの「幸福論」の輝きがみえる。

カット・小山喜三郎

平成二十二年度の宮城県芸術協会研修旅行の参加者は、高橋通子副理事長を団長に、工芸、絵画、書道、華道、音楽（長唄）、文芸、茶道、写真

日本音楽のルーツも

音楽部（長唄）稀音家六城遊

= 研修旅行 ラオス・ベトナム =

の八部門の二十三名。十一月二十一日、十四時五分アジアナ航空にて仙台空港を出発、ソウルで乗継ぎ、ハノイ到着は現地時間二十二時十分。

翌二十二日、世界遺産のハロン湾のクルーズへ出発。ハノイの市街地は建設中のビルや隙間なく走るバイクの群れ。曇り空か粉塵なのか驚くばかり。若者が多く、高齢者は戦死しているの、極めて少ないという。街の中心部を出ると、間口の狭い三階建の細長い家が多く、地震の恐れを感じた。牛と共に農作業をする人々を見ながらハロン湾に到着。ハロン湾は石灰岩より成る大小無数の奇形の島が散在し、世界遺産に登録されている。

た。焼物の町バッチャン、紙漉き織物の村バーンサンコンを見学。夕方、王宮博物館前の道路から石段を登った。この道は夕方になると、織物、刺繍、袋物などを観光客目あてに、店が建ち並び始めてい

た。メコン川の夕刻の情景と美しい夕陽を見て、石段を下りてくると、店がふえて大きな商店街になっていた。二十四日の朝五時半に宿を出て、托鉢の風景を見た。ご供養の仕方をおそわり、おこ

わの入口の器を持って道端に座って待っていた。向こうから僧の行列が見えてきた。オレンジ色の法衣をまとった若い僧や子供の僧もいた。おこわの器からスプーンで次々にご

供養をして合掌して終った。母の供養をした思いで清々しい気持ちになった。朝食後、世界遺産に登録されている王宮博物館を見学。最後の王の肖像画、当時の日本が贈った漆器や焼物が展示してあった。クアンシーの竜や山岳民族モン族の村を訪ね、空港へ向かったが、ハプニングがおき、私たち七名は一時間遅れでラオスを出発し、ようやくハノイへ到着した。二十五日、ホーチミン廟へ、ホーチミン氏のご遺体を拝した。柱一本で建っている一柱寺に参り、その後文廟閣へ。昔の学校で、現在は、孔子像が祀られていた。たつた今卒業式を終えた学生が、民族衣装のアオザイを着てお参りしていた。水上人形劇を鑑賞して、日本の古典音楽のルーツを見た思いがした。ハノイの最後の夕食後空港へ。二十二時二十分アジアナ空港で帰国の途についた。二十六日、十二時四十分仙台空港に到着。好天に恵まれ、無事に楽しい旅を終えた。



龍淵に坊主頭の岩が澄み 諒



ハロン湾風景 (画・跡部高染)

龍淵に坊主頭の岩が澄み 諒
ハロンとは「龍が降りる地」という意味で、「龍淵に」は秋の季語。龍は、春には淵に昇り、秋には淵に潜むと言われる。出典は中国の『説文』。

(句・岩田諒、書・阿部緑泉)

芸協 顧問 宮地房江先生を偲ぶ

顧問 高倉 健



宮地房江さん

と、親しく昔を懐かしむような笑顔で、多くのことを話していたのだ。

宮地先生が主宰する

昨年五月、ある工芸展会場で宮地房江先生のご息女山崎泰子さんにお会いした。「お母さんいかがですか」とお伺いしたら「もうすぐ百歳になりますの：」というお話だった。それが四カ月後の十月、新聞で訃報を知った。心からご冥福をお祈り申し上げます。

二十年ほど前になるが、宮城県が発行している『芸術年鑑』の特集で「戦後四半世紀の工芸」について依頼され、上杉山にあった宮地先生の工房を訪ねたことがある。その時「こんなこともあったのよ

染色グループ「仙房会」が結成されたのは、昭和二十七年である。三年後、初めての展覧会がレジャーセンターを会場に開催された。「その時、ゆかたを一人十点染めて出品したのよ」と、当時を思い出すように話してくださった。昭和三十三年には中央展に挑戦し、光風会展の入選を果たしている。また同じ中央展である三軌会展にも出品し、昭和四十三年には審査員も務められた。

県内の展覧会でもさまざまな活動を繰り広げられた。昭和三十三年には陶芸や木工な

どの工芸家が集まって結成した「仙台工芸青匠会展」の発足にも加わった。宮城県芸術協会が発足してはじめての工芸展開催は昭和三十九年だが、その審査員を務めた。また、徳島県の美術協会との交流をきっかけに「仙台女流美術協会」を結成して会長に就任。以後、仙台と徳島で隔年開催の交流展となった。宮城県工芸美術団体が県境を越えた、はじめての活動となった。

平成に入ると目覚ましい活躍がいくつも見られる。一つには仙台市博物館の依頼を受けて制作した大作四枚の「宮城の四季」である。仙台郊外の釜房ダム湖畔に工房を設けての制作であった。その時、同時に草木染について書かれて出版した『草染かまふさ日記』全五巻は、今でも私の書棚で光り輝いている。この和綴じの著書は各ページに藍や

黄檗^{きば}などで染めた染色の標本が綴じこめられ、先生の書かれた随想が英訳と共に記されている。仙房会会員と共に、野山に染の材料を求めて歩く先生の姿が、目に浮かんでくる。

海外展でも目を見張る活動が見られる。スイス、イタリアなどの展覧会に出品し、平成二年にはフランスのサロン・ドートンヌの会員に選ばれた。中でも八十歳の時、同展に合わせて渡仏し、パリの日本大使館でフランスの人々を前に草木染のワークショップを開催された。宮地先生な



パリの日本大使館広報文化センターで草木染ワークショップをする宮地さん

らではのお仕事である。

それに加えて帰国の直後、『染 宮地房江一九九一』を出版、その記念の宴が催された。こんな精力的なエネルギーがどこから湧いてくるのだろうかと思えるほどであった。また、それに先立つ五年前には「染色工芸を通じ地域文化向上に寄与」したとして、河北文化賞を授与された。

多くのお弟子さんや多くの友人、知人に囲まれた生涯だったと思います。ご逝去を惜しみ、心から哀悼の意をさげます。

芸協参事・歌人 渡邊礼子氏が逝去

当協会参事の渡邊礼子氏が平成二十二年十月十三日、逝去された。七十七歳。山形市山寺出身。学生時代より歌誌「形成」主宰木俣修に師事。「形成」解散後「波濤みやぎ」に移り、支部長を務めていた。宮城県歌人協会副会長。受賞に宮城県芸術選奨、県「文化の日」表彰。『白き楔』ほか二歌集。平成五年より十年まで「はなやま」編集委員として尽力された。

宮城の気鋭展終了

宮城県の画壇において成長の著しい作家の作品展「第三回宮城の気鋭展」が一月十九日まで、LBギャラリー(仙台市青葉区大町)で開催された。昨年の県芸術祭絵画部門で受賞や賞の候補になった日本画、洋画の作家26名の近作を展示。作家たちの年代は30(80代と幅広く、具象、抽象、半立体と、さまざまな表現手法で個性的な作品が並んだ。会期中の来場者は616人で、昨年をやや上回った。

事務局 日誌

会務報告

- 11・1 理事会
- 第2回芸術祭実行委員会の開催について
- 社団法人宮城県芸術協会功労者表彰について
- 記念品の贈呈について
- 12・13 理事会
- 平成23年度の主要行事日程について
- 平成23年度の予算について

後援

☆第52回東北学院大学プレクトラ

ム・ソサエティー定期演奏会

11月27日

仙台市青年文化センター

コンサートホール

☆第18回宮城シニア美術展

12月16日～12月19日

宮城県美術館県民ギャラリー

☆第28回メサイア(救世主)演奏会

12月18日

仙台市青年文化センター

コンサートホール

☆第3回「小・中学生紙上書道展」

12月15日

河北新報朝刊紙上

☆三人展

1月7日～1月12日

せんだいメディアアテーク

☆東北書道新春選抜展

1月7日～1月12日

せんだいメディアアテーク

☆クレールバレエアトリエ子供のための楽しいバレエユニーク

1月22日

ヤーガラコンサートPARTⅡ

1月22日

仙台市青年文化センター

シアターホール

☆第6回翔雲書展

1月28日～2月2日

せんだいメディアアテーク

☆第43回(社)創元会宮城県支部展

1月28日～2月2日

せんだいメディアアテーク

☆第33回恵風書展

2月4日～2月9日

せんだいメディアアテーク

☆第28回白土会展

2月4日～2月9日

せんだいメディアアテーク

☆第6回 Dance Competition in Sendai 2011

2月11日～2月12日

仙台市青年文化センター

シアターホール

☆歌劇「トゥーランドット」ハイライト/原語上演

2月21日

イズミティ21小ホール

☆第23回いずみ絵画協会展

3月1日～3月4日

イズミティ21展示室

☆仙台三曲協会第11回箏・三絃・尺八演奏会

3月5日

仙台市戦災復興記念館

記念ホール

☆第71回春のいけばな展

3月19日～3月22日

せんだいメディアアテーク

☆第6回 ALL NIPPON DATE クラシックバレエコンペティション MIYAGI

3月28日～3月31日

仙台市青年文化センター

シアターホール

☆第75回河北美術展

4月23日～5月4日

藤崎本館7F・8F

☆新藤藤典子・高木美江ジョイントコンサート

4月27日

仙台青葉荘教会

☆第34回白亜会東北支部展

4月27日

仙台青葉荘教会

☆生田流箏曲演奏会

5月28日

電力ホール

☆第63回三軌展東北展

6月10日～6月15日

せんだいメディアアテーク

5月27日～6月1日

せんだいメディアアテーク

5月28日

電力ホール

☆生田流箏曲演奏会

6月10日～6月15日

せんだいメディアアテーク

受贈書

「日本現代詩選第35集」(日本詩人クラブ)、句集「約束」(小笠原弘子)、合同句集「牧びらき(四)」(菊田島椿)、句集「福寿草」(南部静季)、鈴木せつ子句集「かすみ草」(川柳宮城野社)、歌集「波の粒」(桂重俊)、「宮城吟行案内」(社)俳人協会宮城県支部

謹 弔

文芸部(短歌)	岡直勝殿
7月3日	
書道部	齋藤双耕殿
8月3日	
文芸部(俳句)	大町寛子殿
12月5日	
賛助会員	星安治郎殿
12月16日	
文芸部(短歌)	片山新一郎殿
12月18日	

あとがき

新年おめでとございます。今年はお年。統計上は株価をはじめ「上昇」「ジャンプ」「飛躍」の年と言われる▼しかし、先行きは決して明るくはない。政局は混沌続きで、菅内閣も瀬戸際を歩いているように見える。経済も一向に上向き配がない▼経済が停滞すると、真っ先に切られるのが芸術文化の予算。かつて「芸術文化に予算を付けるのは、ドブに金を捨てるようなものだ」と。ほざいた宮城県知事がいたが、案外「官」の本心かもしれない▼政治も経済もお先真っ暗な時代こそ、芸術文化の出番なのだ、と思う。人々の心を癒やし、安らぎを与えるのが芸術文化だからだ。

「校正を手伝って……」。甘言に釣られて編集会議に出た「編集長をやれ」という。「おれおれならぬ「やれやれ詐欺」ではないかと思っただが、気が弱いのので引き受けてしまった。こちらも先行き不透明だが、どうぞよろしくお願いしたい。(恸)